日本統計学会会報 2019.4.30 No. 179

発行―― 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax：03-3234-7738
編集責任―西郷　浩（理事長）／中野　慎也（庶務理事）
伊藤　伸介（広報理事）／古隅　弘樹（広報委員）
水野谷　武志（広報委員）
振替口座―00110-3-743886
銀行口座―みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

1．巻頭随筆：データ学のすすめ…… 竹内　啓… 1
2．「厚生労働省毎月勤労統計調査における不適切な方法による調査に関する声明」について …… 赤平昌文… 3
3．2019年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第一報）…… 中川重和・竹村彰通・桜井裕仁… 5
4．2019年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第二報）…… 中川重和・竹村彰通・桜井裕仁… 5
5．第13回日本統計学会春季集会の報告…… 西郷　浩・山本　渉・川崎　茂・永井義満… 7
6．The 15th International Symposium on Econometric Theory and Applications（SETA2019）のご案内 …… 谷崎久志… 9
7．国際統計教育会議 ICOTS-10（京都）開催報告 …… 鎌倉稔成・山口和範… 10
8．Data Science, Statistics & Visualisation 2019（DSSV 2019）のご案内 …… 足立浩平・宿久　洋… 11
9．統計検定における成績優秀者及び合格者の声 …… 赤平昌文・西郷　浩… 12
10. 2019・2020年度代議員選挙結果 …… 樋田　勉・星野崇宏… 16
11. 理事会・委員会報告（2019年２月９日開催）…… 16
12. 社員総会報告…… 18
13. 被選代議員会報告…… 22
14. 博士論文・修士論文の紹介…… 22
15. 新刊紹介…… 24
16. 学会事務局から…… 25
17. 投稿のお願い…… 25

1．データ学のすすめ

竹内　啓

最近「統計不正問題」がやかましく論じられているが，私はこの際「データ学」というものを提唱したい．このようにいうと「データ・サイエンス」（データの科学）がもてはやされている現在，改めて何をいうのかと怪しまれるかもしれない．しかし「データ・サイエンス」或いは「データ・アナリシス」はほとんどの場合，与えられたデータから出発して，それをどのように扱うかの方法を論ずるものとなっており，データそのもの，そのあり方，品質等を論ずることはあまりない．しかし具体的な統計分析を料理することにたとえるならば，よい料理を作るには，優れた調理法とともによい食材をえらぶことが大切であるように，有効な統計分析を行うには良いデータを選んで適切な解析を行わなければならない．利用できるデータが与えられている場合には，その性質をよく吟味して，それに適した解析法をえらばなければならない．その場合は，有り合わせの材料から食事を作るようなものである．いずれにしても良い料理人は食材をよく吟味して調理法を選ぶように，優れた実際統計家は統計素材をよく調べて解析法を決めるものである．しかしデータを吟味する過程はしばしば「経験と勘」によるものとされ，定式化されて説明されることはほとんどない．しかしそれを何らかの形で一般化し定式化して示すことはできないだろうか．それがデータ学である．

統計データが作成されるには，一般にいくつかの段階を経る．１．知りたいと思う，或いは明きらかにしたい社会的事実，を前提として，２．調査の対象とする社会集団を定め，３．具体的な調査項目と質問事項を定め，４．実際に調査をする対象のえらび方（母集団の定義，標本抽出方式）を定め，５．調査の方式（調査員による訪問，郵送，電話，インターネット等）をえらび，６．集められた調査票を審査し，７．調査票の結果を一定の方式で集計し，８．結果を公表する，ということになる．特別の統計調査だけでなく，既存の業務記録，或いは登録データが用いられる場合にも，１．記録作成の目的，２．対象集団の定義，３．記載項目，４．実際に記載されている対象の範囲（カヴァーレッヂ），５．記録のあり方，が問題になる．

このすべての段階において，あらかじめ定めた計画やルールと実際との乖離，「建て前」と現実とのくい違いが生じ得る．それは母集団資料の不備，調査対象の誤解や非協力，実施者の過失や能力不足，集計段階での誤まりなどから起る．

このようにして得られた統計データが，最初に目的とした「社会的事実」を正しく反映しているか否かが「統計の信頼性」の問題である．そこには統計数字が社会の現実を正しく反映しているかという「真実性」の問題と，それが知りたいと思う「事実」を適切に表しているかという「適切性」の２面がある．

現実には100％の信頼性を達成することは不可能である．そこで現実に得られたデータが十分と考えてよい信頼性を持つことを確かめるためには，上記の各段階について注意深くチェックする必要がある．そのことを可能にするためには各段階の手続きがくわしく具体的に明記されていなければならない．統計法は政府の「基幹統計」「一般統計」についてこのことを要求している．同時に「建て前」と「実際」のズレについての情報（把握率，回答率，事後精度の推定値等）が公表されることが望ましい．

統計データの信頼性をチェックする方式はある程度マニュアル化することは可能であろう．もしそれをチェックする情報が得られない場合には，信頼性について疑問を持つべきである．

上記の議論は，それに関する報告は不十分な部分があっても誠実に書かれていることを前提している．すなわちそこには意図的な虚偽，歪曲，捏造は存在しないと想定されている．もしこのようなことが行われていることが曝露されたり，疑われたりすれば，その統計に対する信頼は失われてしまう．

統計数字の信頼性は，それと他の統計や資料と比較することによってもチェックできる．特に継続的に行われている調査に関しては，個票レベルに立ち戻ることができれば，それを時系列的に扱うことによって，異常値のチェック，欠測値の補完等を行うことができて結果の集計値の信頼性を高めることができる．そのためには若干の理論的考察が必要であるが，それはそれほど複雑なものではない．

同一の事象について，異なる方向から接近した２つ以上の統計数字が存在する場合にはそれを照合することにより，統計の信頼性についての有用な情報が得られることが多い．貿易については，輸出側と輸入側の双方向から捉えることができる．そのため政府統計の信頼度が一般に低い国においても，貿易に関しては比較的に信頼できる統計が得られ，またその数字を用いて，GDP や特定の部門の産出額の数字をチェックすることができる．

国民経済計算体系は，総生産＝総支出＝総所得のいわゆる「三面等価」を中心とするいくつかの勘定から構成されているが，それらの勘定は理論的に成立しなければならない等式からなっており，しかも両辺はそれぞれ独立に計測可能な項目からなっているから，それを突き合わせることによって数字全般の信頼性をチェックすることができる．現実には一つの勘定の中のある項目は直接計測されず，等式から引き算によって算出されることが多いが，すべての項目が独立に計測されれば，両辺の不一致，いわゆる「統計的不突合」が生ずることになる．この項の処理は面倒であるが，しか

しそれは国民経済計算全体の信頼性の有益な尺度を与える．

一般に統計体系の中で同じことを表す２つ以上の数字，すなわち冗長度が存在することは決して無意味，或いはムダではなく，統計の信頼性をチェックするための有益な情報を与えることに注意すべきである．

以上にのべたことは「データ学」のほんの一端にすぎない．

２．「厚生労働省毎月勤労統計調査における不適切な方法による調査に関する声明」について

赤平　昌文（日本統計学会会長）

皆様，御存知のように，厚生労働省毎月勤労統計調査において不適切な方法により調査が実施されていたことについて，2019年１月28日付けで，学会ウェブサイトにプレスリリースとして声明文を発表しました．マスコミ等で取り上げられるとともに，第131回統計委員会（2019年１月30日開催）においても，声明文の内容が共有されました．今回の声明文の作成に際しては，公的統計に詳しい会員の方々に御尽力頂きました．ここに，感謝申し上げます．

状況が刻々と変化していく中でいち早く学会の姿勢を示すために，声明文案について短期間内に理事会の皆様，代議員の皆様の御意見を伺いましたが，時間的に十分とは言えませんでした．また，会員の皆様からも広く意見を聴取する機会を設けることができませんでしたので，春季集会（2019年３月10日）において声明公表に至った経緯説明，声明内容に関する説明を行い，会員の皆様から御意見を頂き議論する場としての特別セッションを急遽設けることに致しました．当日は，多くの方々に御参加頂き有難うございました．現在，学会に公的統計に関する臨時委員会の設置の準備をしております．なお，特別セッションにはマスコミの方々も参加され，朝日新聞朝刊（2019年３月11日付）にその記事が掲載されました．

（以下，声明文）

平成31年１月28日

厚生労働省毎月勤労統計調査における
不適切な方法による調査に関する声明

日本統計学会

今回，厚生労働省毎月勤労統計調査において不適切な調査が行われていたことが発覚した．信頼性の高い公的統計の提供のために，政府において原因が究明され，その結果が公表されるとともに，再発防止策が講じられることを強く希望する．原因究明と再発防止策の検討の過程において，求めがあれば，専門的な見地から本学会が協力することを表明する．

実査継続の困難を理由として，定められた手続きを経ずに調査方法が変更されたことが明らかとなったが，統計法を遵守することは公的統計の必須の前提である．最も重大な問題点は調査方法の変更が担当部局の独断で行われ，さらにその変更が公表されていなかったことである．毎月勤労統計のような基幹統計については，その調査項目，標本設計，集計方法などについて統計委員会（以前は統計審議会）の審議を経て決定され，またその内容は印刷物等で公表されることが定められている．しかし今回の変更については統計委員会等に報告されず，明確に法令に違反するものであった．統計の信頼性はその作成手続きの透明性と，

その手続きが守られることの保証とにかかっているため，今回の法令違反は公的統計の信頼性を根底から揺るがすものである．

毎月勤労統計については，まず承認を受けた調査計画に沿った調査を実施できるように政府全体として取り組むべきである．その上で，以下に記す点に留意しながら，より適切な調査体系として見直すことが適当である．

統計作成のためにどのような調査方法が選ばれるかは，作成される統計の利用目的に応じて要求される精度，調査対象の性質，実査や調査票の審査，集計に利用できる時間・人員，予算など，さまざまな要因に依存する．標本調査の場合，全数調査と比較して標本抽出に伴う誤差が発生する一方で，調査規模が小さく無回答誤差などの非標本誤差が制御しやすくなるため，調査全体の誤差を比較検討するには専門的な知識が要求される．誤差評価のためには，母集団の分布に関する情報，標本の大きさ，標本抽出と推定方法の詳細，回答率および非回答事業所の処理など，調査の設計に関する基本情報が必要であり，最終的にこのような諸条件を勘案して調査方法が選択される．そのためには，当該調査の現状に精通している者と標本設計の理論に明るい者との共同作業が必須である．事業所を対象とする標本調査の場合は大規模事業所間の変動が大きいため，通常は大規模事業所については全数調査とすることが適当であり，毎月勤労統計の場合もそのような検討を経て現行の調査設計が承認されている．今回は集計プログラムの誤りも指摘されたが，結果に及ぼす影響は甚大であり，集計プログラムの担当者と調査方法設計の担当者が異なる場合には，特に確認作業が徹底するように手続きを定めておく必要がある．

毎月勤労統計における不適切な調査・公表状況の発覚は公的統計の信頼性に深刻な打撃を与えた．過去には信頼性が国際的にも評価されていたわが国の公的統計ではあるが，近年の行政改革の過程で予算および人員が削減される中で品質の維持が懸念されていた．品質をさらに向上させるために統計関係者が協力して公的統計の改革を推進している過程において，各府省の統計を点検している際に，想定を超えた不祥事が指摘されたものである．毎月勤労統計以外に明らかにされた一連の事例の中には軽微なものも含まれているが，今後，毎月勤労統計と同じような事態の再発を防止することを含めて，統計を軽視する傾向を改めるようにわが国の統計機構を強化することが必要である．

以下の点を中心にして政府全体の統計作成機関に関する検討を進める過程で，本学会は，専門的な立場から協力する所存である．

- 統計作成部局における統計教育を体系化し，経験を蓄積できる体制を構築すること．
- 特に基幹統計については，当該分野の専門家および統計調査法の専門家を含む常設の研究会を設置すること．
- 集計プログラム確認の手続きを調査設計に組み込むこと．
- 統計法にしたがって調査設計・推計方法など，調査計画の詳細を公開すること．

再発防止策を講ずるに当たり，統計法の背後にある基本理念が統計作成の現場で徹底されることを強く要望する．

３．2019年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第一報）

運営委員長　中川　重和（岡山理科大学）
実行委員長　竹村　彰通（滋賀大学）
プログラム委員長　（大学入試センター）

１．2019年度統計関連学会連合大会について

2019年度統計関連学会連合大会は，応用統計学会，日本計算機統計学会，日本計量生物学会，日本行動計量学会，日本統計学会，日本分類学会の主催により，下記要領にて開催いたします．

日程：2019年９月８日（日）－12日（木）

会場：滋賀大学彦根キャンパス
（https://www.shiga-u.ac.jp/）

９月８日：チュートリアルセッションおよび市民講演会

９月９日－12日：本大会（一般講演，企画セッション，コンペティションセッション，ソフトウェアセッションなど）

２．各種企画について

本大会においてｘ従来の大会と同様に，チュートリアルセッション，市民講演会，企画セッション（４月上旬に締め切りを設定予定），コンペティションセッション，ソフトウェアセッションなどを予定しています．何かご意見やご提案をお持ちの方はプログラム委員会（kikaku2019（at）jfssa.jp）までお知らせください（（at）を @ に置き換えてください）．企画セッションの公募は第二報（３月上旬発行予定）で，各種企画は，第三報（５月上旬発行予定）で，それぞれお知らせする予定です．

３．一般講演や大会参加について

一般講演や参加の事前申込，報告集原稿提出は今後開設するホームページ上で行います．一般講演申込の締め切りを５月下旬（予定）とし，それ以降に，報告集原稿提出および参加の事前申込の締め切りを設定いたします．発表を計画されている方は予定に組み込んでいただければ幸いです．確定した期日は，第三報でお知らせいたします．

４．2019年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第二報）

―企画セッションの公募―

運営委員長　中川　重和（岡山理科大学）
実行委員長　竹村　彰通（滋賀大学）
プログラム委員長　桜井　裕仁（大学入試センター）

今回で18回目になる2019年度統計関連学会連合大会について進捗状況をご報告いたします．今大会は応用統計学会，日本計算機統計学会，日本計量生物学会，日本行動計量学会，日本統計学会，日本分類学会の６学会主催，滋賀大学共催（予定）により開催する運びとなりました．初日の９月８日（日）はチュートリアルセッションと市民講演会を，２日目以降（９月９日（月）～12日（木））は一般講演や企画セッションなどを，会場はいずれも滋賀大学彦根キャンパスで開催いたします．

この第二報では，主に企画セッションの公募をご案内いたします．今後，連合大会のホームページ

http://www.jfssa.jp/taikai/2019/
に関連情報や詳細情報を随時掲載していきますので，ご覧ください．（トップページは近日中に公開予定）

1．企画セッションの公募

統計関連学会連合大会プログラム委員会は，市民講演会，チュートリアルセッション，企画セッション，コンペティションセッション，ソフトウェアセッション等を担当しています．統計関連学会会員の皆様でご意見やご提案をお持ちの方は是非お知らせください．

また，企画セッションに関しては，今回もこれまで通り公募します．広い意味で統計学の発展への寄与，統計学の社会的使命に関わる企画等のご提案を歓迎します．なお，応募が多数の場合にはプログラム委員会で調整させていただくこともありますので，ご了承ください．企画セッションの申込に際しては，

1）セッションのテーマとねらい
2）オーガナイザーの氏名・所属・連絡先
3）座長の氏名・所属
4）予定講演者の氏名・所属・演題名・使用予定言語（日本語または英語）

をメールにてお知らせください．企画セッション１件あたりの時間枠は120分を予定しています．講演件数・講演方法などは，この時間の範囲で自由に設定いただけます．

企画セッション応募締切
2019年４月17日（水）17：00［厳守］
企画セッション応募先
kikaku2019(at)jfssa.jp(at) を @ に置き換えてください．
担当責任者　安藤　宗司（東京理科大学）

2．その他の準備状況のご報告

2.1　コンペティションについて

「コンペティション講演」に関わる事項は次の通りです．コンペティション講演は，研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画です．参加資格は2019年４月１日時点で満30歳未満の若手研究者（博士後期課程院生を含む），または，講演時に学部学生や修士課程（または博士前期課程）院生（年齢を問いません）です．連名講演の場合，コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です．なお，コンペティション対象者は，講演申込時に主催６学会のいずれかの会員でなければなりません．ただし，入会申請中の方も認めます．プログラム委員会から各学会事務局に会員照会し，会員（入会申請中）でないことが判明した場合は，コンペティションへのエントリーを取り消しますので，十分にご注意ください．コンペティション応募総数は年々増加傾向にあり，プログラムを組むのが難しくなっています．したがって，今年度は申込順でコンペティション参加件数を制限することがあります．審査は，講演報告集の内容と当日の口頭発表に対して，各学会から選出された審査員による総合的な評価で行います．

2.2　チュートリアルセッション，市民講演会，ソフトウェアセッションについて

９月８日にチュートリアルセッションおよび市民講演会を開催予定です．多くの市民や研究者の方々にとって興味を持っていただける内容を企画中です．皆様の積極的な参加をお待ちしています．また，昨年と同様にソフトウェアセッションについても計画しています．詳細は，2019年５月上旬頃発行予定の第三報でお知らせいたします．

2.3　一般講演申込，報告集原稿提出，事前参加申込について

一般講演や事前参加の申込，報告集原稿提出はホームページ上で行います．一般講演申込の締切を６月上旬（予定）とし，それ以降，報告集原稿提出および事前参加申込の締切を設定します．確定した期日や具体的な企画は，第三報でお知らせいたします．

5．第13回日本統計学会春季集会の報告

西郷　浩（日本統計学会理事長）
山本　渉・川崎　茂・永井　義満（企画・行事委員会）

標記の集会が2019年３月10日（日）に日本大学の経済学部本館（東京都千代田区）で開催されました．今回の集会では，１つの特別セッション，５つの企画セッション，そしてポスターセッションが企画され，活発な議論が交わされました．

経済学部本館４階の47番教室にて，開会式の後，狩野裕氏・濵田悦生氏（大阪大学）のオーガナイズによる企画セッション「超スマート社会の実現に向けたデータサイエンティストの育成」が実施され，北海道大学，横浜市立大学，名古屋大学，大阪大学よりそれぞれの取り組みについての講演がありました．続く特別セッション「公的統計について日本統計学会声明とともに考える」では，本年１月に日本統計学会が公表した「厚生労働省毎月勤労統計調査における不適切な方法による調査に関する声明」の発表の経緯について，西郷浩理事長から説明が行われ，美添泰人氏からこの問題に関する論点整理や解説などが行われた後，参加者による意見交換が行われました．

ポスターセッションは昼休みをコアタイムとして開催され，学部生，大学院生，若手研究者を中心とした36件の発表がありました．コアタイムの前にはポスター発表者同士がお互いに発表し合うなど，発表者同士の交流がありました．コアタイムでは，来場者との熱心な議論により有意義な研究交流がなされました．優れたポスター発表に贈られる優秀発表賞は今泉允聡氏（統計数理研究所），中山優吾氏（筑波大学大学院）の２名に，学生優秀発表賞は羽村靖之氏（東京大学大学院），藤田智紀氏（大阪大学大学院），山崎遼也氏（京都大学大学院）の３名に授与され，懇親会において赤平昌文会長より表彰されました（氏名は五十音順）．また今回の春季集会からポスターセッションで優秀な成績を収められた方々に，一般財団法人統計質保証推進協会より統計検定センター長賞を贈呈していただくことになりました．後日に同協会より各受賞者に賞状と副賞を送付していただきましたことも，ご報告します．

午後は同じく経済学部本館の３階の２つの会場に分かれ，合計４セッションが実施されました．36番教室では，黒木学氏（横浜国立大学）「チュートリアル：公平性配慮型データマイニングと因果推論の接点：基本的な考え方と周辺の話題」，松田安昌氏（東北大学）「時空間統計」が実施されました．また39番教室では，企画・行事委員会「統計教育の機会としてのコンペティション・アワードの最新動向」と美添泰人氏（青山学院大学）「統計教育に関する検定制度とその新展開」が実施されました．

セッション終了後，学士会館に移動して懇親会が開催され，セッションの議論の続きや会員相互の親睦・情報交換を行うことができました．ポスター発表の授賞式が懇親会の席で行われることもあり，例年通り多くの学生の参加がありました．なお，今年の春季集会の参加者は213名，懇親会の参加者は62名でした．

春季集会は単一セッション，もしくは２つの並行セッションで構成されていますので，じっくりと研究発表を聞くよい機会です．またオーガナイザーの先生方にセッションを企画していただき，登壇者は企画・行事委員会からの招待講演者として登壇していただきます．ポスター発表にも，若い世代の研究者が集まり，多くの交流が生まれています．今回の春季集会も多くの発表者，参加者に恵まれ，お陰様で盛会のうちに終了することができました．最後に，本集会を成功裏に導いて下さった方々に感謝を申し上げます．

春季集会 URL
http://www.jss.gr.jp/convention/spring13/

ポスターセッション優秀発表賞

受賞のことば

今泉　允聡（統計数理研究所）

この度は名誉ある賞を頂くことができ，光栄に思っております．審査をしてくださった先生方，そしてこのような研究発表の場を準備してくださった学会運営の先生方に，改めて感謝を申し上げます．今回発表しました研究は，一般的なM推定量に関する汎用的な理論を取り扱っているものです．私個人としては大変面白く感じながら研究を進めていたのですが，発表を通じて先生方にその面白さを理解していただいたことを，大変嬉しく感じております．今後もこの研究をより発展させることができるよう，精進していきたいと思います．

受賞のことば

中山　優吾（筑波大学大学院）

この度は，ポスターセッションにおいて「優秀発表賞」という栄誉ある賞を頂き，大変光栄に存じます．審査をはじめとして，ポスターセッションを企画・運営して下さった大会関係者の皆様に，厚く御礼を申し上げます．日頃から熱心に且つ厳格に指導して下さっている青嶋誠先生，矢田和善先生には，心から感謝しております．また，発表練習にお付き合い頂いた青嶋研究室の皆様にも，この場をお借りして御礼申し上げます．本報告では，高次元データに対し，カーネル主成分スコアの符号によってクラスタリングできることを報告致しました．提案手法の実装は簡単で，高次元データ解析の現場で使って頂ければと思っております．今回の受賞を励みに，青嶋先生からいつも言われている「意義ある革新的研究と社会への貢献」を実現できるように，これからも日々精進して参ります．

ポスターセッション学生優秀発表賞

受賞のことば

羽村　靖之（東京大学大学院）

この度は学生優秀発表賞という栄誉ある賞を頂き，誠にありがとうございました．審査に携わられた方，大会を運営して下さった方に，厚くお礼を申し上げます．大学院での研究を始めた段階では成果を得ることすら考えられませんでしたが，指導教官の久保川達也先生の日頃からの丁寧で熱心な御指導のおかげで受賞できたのだと思います．心より感謝しております．また研究室のメンバーにはポスターの原稿に対する有益な提案や，当日の発表会場でのサポートをして頂きました．今回の発表内容の，不均一性をもつポアソン分布の母数の同時推定の問題については，すでにある程度結果や構成が固まっていると考えておりましたが，当日多くの貴重なコメントを頂いた結果，今後の研究に向けた，いくつかの重要な視点を新たに持つことができました．今回の受賞を励みとして，これからも研究に精進して参りたいと思います．

受賞のことば

藤田　智紀（大阪大学大学院）

この度は，学生優秀発表賞に選出していただき，誠にありがとうございます．今回の春期集会における，ポスターセッションの運営，審査に携わられた方々皆様に厚く御礼申し上げます．本発表は，狩野先生のご指導のもと，学部４年次から学び続けてきた生存時間解析の内容を発展させたものになります．二重区間打ち切りと，治癒群の存在という，特別な状況に焦点をあて，推測法を構成しました．本研究に際しまして，お忙しい中でも，欠かさず個別ゼミを設けてディスカッションをしていただいた狩野先生と，私の理解が足りていない部分があればいつでも相談にのっていただいた研究室のメンバーの方々には，心より感謝しております．皆様の協力があったからこそ，今日まで研究を続けることができました．今後は社会人となりますが，この賞を励みとし，より社会に対し

て何かを与えられる研究ができるように日々精進して参りたいと思います.

受賞のことば

山崎　遼也（京都大学大学院）

この度は，第13回日本統計学会春季集会のポスターセッションにおいて，学生優秀発表賞にご選出下さり大変光栄に存じております.

ポスターセッションの企画及び審査に携わられた先生方をはじめとして，春季集会を運営してくださった関係者の皆様には深く御礼を申し上げます.

また，在籍している大学院において，日頃からご指導いただいている田中利幸先生と研究会において的確なご助言を下さる研究室のメンバーには，心から感謝しております．今回の集会で頂いたコメントを参考に，また，この賞を励みとして，自身の研究に一層まい進して参りたいと存じます.

ポスターセッション受賞者と赤平会長，西郷理事長

6．The 15th International Symposium on Econometric Theory and Applications（SETA2019）のご案内

SETA2019 組織委員会委員長・プログラム委員会委員長
谷崎　久志（大阪大学大学院経済学研究科）

第15回計量経済学とその応用に関する国際シンポジウム（The 15th International Symposium on Econometric Theory and Applications，SETA2019）が2019年６月１日（土），２日（日）に，大阪大学・豊中キャンパスで開催されます．論文の受付は終了していますが，参加登録はまだ受け付けています．皆様のご参加をお待ちしております.

１．今後の予定

参加費：30,000円（2019年４月22日～2019年５月15日）
　　：35,000円（2019年６月１，２日，当日参加）
（学生割引あり）

２．招待講演者

Torben Andersen（Kellogg School of Management, Northwestern University）（ET lecture）
Joon Y. Park（Department of Economics, Indiana University）（SETA lecture）
Francesco Bianchi（Department of Economics, Duke University）
Kengo Kato（Department of Statistical Science, Cornell University）
Peter M. Robinson（Department of Economics, London School of Economics）
Kevin Sheppard（Oxford-Man Institute of Quantitative Finance, University of Oxford）

３．詳細は，

http://stat.econ.osaka-u.ac.jp/~seta2019/
をご覧ください.

7．国際統計教育会議 ICOTS-10（京都）開催報告

鎌倉　稔成（国内大会委員長：中央大学理工学部）
山口　和範（国内大会事務局長：立教大学経営学部）

統計の重要性への認識が人材育成と併せ世界的に高まりを見せる中で，統計教育をどう再編していくのかが様々なモードで議論されているが，ISI（国際統計協会）では統計教育に関するセクション IASE（International Association for Statistical Education）が主にこの問題を取り扱っている．IASE は，世界中の関係する研究者・教育者・行政職員等が参集する統計教育に関する最大規模の国際会議 ICOTS（International Conference On Teaching Statistics）を４年に１回開催しており，昨年７月にその記念すべき第10回目の会議 ICOTS10を Helen Macgillivery ISI 現会長の依頼で日本（京都）に招致した．ICOTS は最初，1982年に ISI の教育委員会（the Education Committee）主催の国際会議としてスタートし，ICOTS ３の開催後，ISI の下部組織としての IASE が設立され，以降は IASE の主催として開催されている．会議規模は回を増す毎に拡大し，最近は500名から700名程度となっている．

これまでの ICOTS の開催年と開催都市は，ICOTS １ : 1982 : Sheffield, UK，ICOTS ２ : 1986 : Victoria, Canada，ICOTS ３ : 1990 : Dunedin, New Zealand，ICOTS ４ : 1994 : Marrakech, Morocco，ICOTS ５ : 1998 : Singapore，ICOTS ６ : 2002 : Cape Town, South Africa，ICOTS ７ : 2006 : Salvador, Brazil，ICOTS ８ : 2010 : Ljubljana, Slovenia，ICOTS ９ : 2014: Flagstaff, Arizona, USA，ICOTS-10 : 2018 : 京都 , 日本である .

ICOTS に対応して，US-COTS, OZ-COTS 等，いくつかの国で国内の統計教育方法論会議が定期的に開催されるようになり，日本では統計学会統計教育委員会・分科会の主催で Japan-COTS（統計教育方法論 WS）が毎年，開催されているが，ICOTS10の開催に合わせ，2018年度は第14回 Japan-COTS を同じ会場で ICOTS10の直前の２日間開催し，ICOTS と Japan-COTS の交流も行った．ICOTS10は，７月８日から13日の日程で京都市にある国際会議場（京都テルサ）で開催された．今回の開催では，日本統計学会，統計数理研究所，数学教育学会，日本数学教育学会，京都市の後援と，ISI 東京大会記念基金からの助成を得た．とくに記念基金からの支援により，ISI と連携して途上国からの参加旅費補助や ISI の特別委員会である ISLP（International Statistical Literacy Project）への補助等を行うことができ，会期中に開催された ISI 総会，IASE 総会，ISLP 総会においてそれぞれの会長から日本統計学会赤平会長への謝辞が述べられた．参加者の数と国や地域別の数は，表１のとおりである．

今回の会議のテーマは，“Looking back, looking forward” で，これまでの統計教育を振り返り，新しい時代の統計教育を議論する場となった．キーノートスピーカーを務めたのは，椿広計（日本），Hilary Parker（United States），Anna Rosling Rönnlund（Sweden），Chris Wild（New Zealand），Helen MacGillivray（Australia）であり，最先端の統計教育と今後の方向性が示唆された．ソーシャルイベントしては，会場内での茶道体験に加え，ICOTS での恒例の水曜日午後のエクスカーションは，京都，奈良，宇治，大阪が有料プログラムとして提供されたが，どれも予約でいっぱいになり，追加でのバスを手配するほどであった．さらに，同日奈良市内の学校訪問と授業見学の機会を設けることができ，こちらも定員いっぱいの参加者があった．

会議修了後に，IASE 会長の Gail Burrill 氏から，参加者および IASE 役員からとても好評であったとのフィードバックが多数寄せられているとのコ

表１　国地域別参加者数

Country	#	Country	#	Country	#
Argentina	4	Greece	1	Philippines	23
Australia	28	Hungary	3	Portugal	2
Austria	2	India	1	Qatar	1
Belgium	6	Indonesia	4	Serbia	1
Brazil	9	Ireland	1	Singapore	1
Canada	24	Israel	6	Slovenia	1
Chile	1	Italy	5	South Africa	4
China	4	Japan	87	Spain	5
Colombia	4	Jordan	1	Sri Lanka	2
Costa Rica	2	Kenya	2	Sudan	1
Croatia	1	Korea	3	Sweden	9
Czech	1	Mexico	8	Taiwan	6
Denmark	1	Netherlands	13	Thailand	1
Finland	2	New Zealand	19	Turkey	5
France	1	Norway	1	United Kingdom	21
Germany	18	Pakistan	1	United States	122
Ghana	1	Peru	2	Unknown	8
				Total	480

メントがあり，成功裏に会議を終えられたとの印象を持っている．開催にあたり，協力をいただいた方々に厚く御礼を申し上げ，開催報告としたい．

なお，次回の ICOTS11は，2022年アルゼンチンで開催されることが決定している．

８．Data Science, Statistics & Visualisation 2019（DSSV 2019）のご案内

実行委員長　足立　浩平（大阪大学）
実行副委員長　宿久　洋（同志社大学）

Data Science, Statistics & Visualisation（DSSV）は，International Statistical Institute（ISI）の International Association of Statistical Computing（IASC）部門が主催する国際会議であり，その2019年の大会が，日本統計学会の支援を得て，ISI の World Statistics Congress 2019のサテライト会議の位置づけのもと，下記のように，日本（京都）で開催されます．

［大会名称］Data Science, Statistics & Visualisation 2019（DSSV 2019）

［大会期間］2019年８月13日（火曜）～15日（木曜）

［大会会場］京都市　同志社大学・今出川キャンパス

［大会 Web ページ］http://iasc-isi.org/dssv2019/

［歓迎レセプション］2019年８月13日「ザ ソウド ウ 東山 京都」
https://www.thesodoh.com/restaurant/

［ディナー（懇親会）］2019年８月14日「鶴清」
http://www.tsuruse.co.jp/

［共催］日本統計学会・統計数理研究所・日本計算機統計学会

［後援］統計関連学会連合

DSSV は，広くデータサイエンス，統計学，および，可視化研究に関わる研究者が，最新の研究について発表・聴講・意見交換し，さらには，異なるディシプリンの研究の中に新たなアイデアを見いだすためのフォーラムとして開催されてきました．対象となるテーマには，機械学習・データの言語化・ビッグデータ処理・最新の計算論なども含まれます．

DSSV2019開催までの重要な日程，日本統計学会会員の大会・ディナー参加費，および，大会Webを通したホテル予約に関する情報は，以下のとおりです（歓迎レセプションは大会参加費に含まれます）.

［大会前の重要な日程］

・アブストラクト投稿期限 2019年５月７日
・早期参加登録期限 2019年４月30日
・通常参加登録期限 2019年６月14日

［日本統計学会員の大会参加費］

・早期 260ユーロ．通常 300ユーロ．6/15以降 400ユーロ

［日本統計学会員のディナー参加費］

・早期 70ユーロ．通常 100ユーロ．6/15以降 100ユーロ

［大会 Web を通したホテル予約］

・参加登録の Web 画面でホテルの選択と予約もできます．大会翌日夜に開催される京都の行事「五山の送り火（通称，大文字焼き）」も鑑賞したい方のため８月16日の宿泊まで予約可能となっています．なお，満室になった後は，大会Webを通した予約はできません.

さて，DSSV2019では，一般発表に加えて，モナシュ大学（オーストラリア）の Di Cook 氏，カリフォルニア大学（米国）の Kwan-Liu Ma 氏，および，ケンブリッジ大学（英国）の Richard Samworth 氏がそれぞれキーノート講演を行い，ライス大学（米国）の Genevera Allen 氏，ソウル国立大学（韓国）の Yongdai Kim 氏，京都大学の下平英寿氏，および，ジョージワシントン大学（米国）の Huixia Judy Wang 氏がそれぞれ招待講演を行います．さらに，幾つかのアップトゥーデートなテーマに関する招待トークセッションも催します.

なお，過去の大会は，ポルトガル（リスボン）で開催された DSSV2017，オーストリア（ウィーン）での DSSV2018であり，それらの情報は下記の Web ページに記されています.

［過去の大会の Web ページ］

・DSSV2017　http://iasc-isi.org/dssv2017/
・DSSV2018　http://iasc-isi.org/dssv2018/

９．統計検定における成績優秀者及び合格者の声

赤平　昌文（日本統計学会会長）
西郷　浩（日本統計学会理事長）

2018年11月統計検定の成績優秀者

2018年11月25日に統計検定が行われました．以下に，各試験種別の合格者のうち，成績優秀者でかつ公開に同意された方々の氏名を掲載します．掲載は姓の五十音順です．また以下の情報は統計検定のホームページでも公開しております.

１級「統計数理」

最優秀成績賞（S）：秋元壮颯，嶌田洸一，竹市大将，幡山五郎，松永眞章

優秀成績賞（A）：伊草俊哉，井上恭輔，今村志郎，木原太一，日下部佑介，中山昌紀，藤森正悟，古谷洸貴，結城凌

１級「統計応用」

最優秀成績賞（S）：秋元壮颯，髙橋俊太，中田百科，半田大輔

優秀成績賞（A）：愛甲隼大，今村志郎，大野拓哉，河嵜光毅，塘由惟，中山裕貴，結城凌，芳川裕亮

２級

最優秀成績賞（S）：浦川弘亨，大原健悟，岡村知美，尾関大地，熊谷正康，小林祐介，田中陽二，土井佑介，長尾浩希，浪江亮介，林瑛治，東哲志，

東村健太朗，松下耕三，三木淳司，南勇一郎，山﨑健一，吉田航

優秀成績賞（A）：新井崇夫，井汲景太，石川洸，伊藤涼太郎，植村英恵，太田裕之，小澤俊介，黒瀬厚，黒瀬絢也，小磯貴之，佐藤俊，島村源太，菅井豊和，鈴木太斗，竹原裕輔，竹村光，千葉了磨，仲崇文，長久晃太，中村孝弘，西森誠，西山晃平，野口聡明，長谷川涼，服部実香，福田晃，前嶌聡希，前田隆之，松園泰典，右田恭兵，宮崎邦洋，宮田知昌，村上宗司，村地真祐子，森田有哉，山口尊，山田太雅，米田光佑，連燦紅

３級

最優秀成績賞（S）：江川公浩，川上陸，菊地昇，熊谷徹也，田邉生一，増島尚希

優秀成績賞（A）：石橋奈緒美，田口晃，西高宏，針山勇太郎，芳川直子，渡邉将貴

４級

最優秀成績賞（S）：酒井利之，土屋有紗

優秀成績賞（A）：北井達子，竹田洋平

統計調査士

最優秀成績賞（S）：石橋雄一，大畑茂久，栗林邦明，福井祥文，光武麻子，山田浩貴，山田雄也

優秀成績賞（A）：井手勇慈，片岡士郎，熊澤健治，五藤大介，小柳祐輔，佐々木政紀，佐藤和浩，高田一輝，鳥居拓郎，野口正太，松川泰之，溝口遊人，御手洗拓真，村田研吾，山本理志

専門統計調査士

最優秀成績賞（S）：井手勇慈，片岡士郎，熊澤健治

優秀成績賞（A）：栗林邦明，朝永昌孝，三浦萌実，溝口遊人，光武麻子，森山友和

統計検定合格者の声

統計検定（2018年11月25日実施）の合格者よりいただいた声を掲載します．

１級「統計応用」合格

統計検定が最先端の研究者たちの登竜門になることを願っています

中田　百科さん（日立製作所 研究開発グループ）

大学での専門は物理で統計を深く学ぶ機会はなかったのですが，会社での業務や趣味で機械学習を勉強し始めると統計学の必要性を強く感じるようになり，統計検定の受験に至りました．

まず一級の試験日の半年前から，東大出版の「自然科学の統計学」で基礎固めをし，検定公式の教科書である「統計学」で知識を拡げました．次に，仕事の合間を縫って公式の過去問集や，アクチュアリー資格の過去問を解き，試験問題に慣れるよう努めました．また，試験の一ヶ月前から，問題を自作して解くことで応用力を身につけるよう努めました．もともと予備校で大学入試問題の作成をしていたこともあって，とても楽しむことができました．

結果として，18年の春に準一級，冬に一級（統計数理及び統計応用理工学）に合格することができました．統計応用はＳ評価を頂いたものの，統計数理は計算ミスが響いて賞を得ることはできませんでした．逆にそのお陰もあって，もっと深く統計学を学びたいと思うようになり，日々勉強に明け暮れています．

さて，近年人気を博している機械学習の一つに深層学習があります．この手法は物理や脳科学のモデルから生まれ，今では情報科学の花形となりました．しかし強力な手法でありながら，あまりにも複雑なため「よくわからない」まま使われているのが現状です．私は，「よくわかる」には統計的性質の探求が必要だと考えています．例えば，線形回帰においてモデルがデータにフィッティングしているかどうかは，決定係数を見れば分かります．ベイズ最適化において回帰の予測分散を見れば，実験計画をたてることができます．深層学習においてこれらの統計的性質が分かれば，モデル自体の理解だけでなく，様々な応用が可能になります．

統計検定という資格が，こういった最先端の手

法を発展させる研究者たちの登竜門になることを願っています.

１級「統計数理」合格

「結果を見るだけ」から,「適切性を判断しての解析」へ

松永　眞章さん（医師，大学院生）

疫学研究で必要な統計解析を学ぶのに役立つと思い受検しました.

大学では系統的な統計学の講義がなかったので,独学で教科書を読んだり，過去問や問題集を解いたり，統計検定の対策セミナーを受講して試験対策を行いました.

統計数理の対策としては，基本的な確率分布の確率関数・確率密度関数，期待値，分散，確率母関数・モーメント母関数，最尤推定量を考えなくても導出できるぐらい計算に習熟することが重要です．それに加えて，過去問を解くことで，その他の頻出分野（たとえば，不偏推定量，フィッシャー情報量，最尤法，条件付き分布・期待値・分散，順序統計量など）の理解を深めることも必要です.

２年前に統計検定のことを知り，これまでに２級，準１級，１級と受検してきました．２級で統計学の基礎知識，準１級で様々な統計手法，１級で数理統計学の基礎を学ぶことができました.

これまでは統計解析ソフトをマニュアル通りに操作して出てきた結果を見るだけでしたが，適切な解析手法かを判断した上で解析できるようになりました．また，教科書には詳しく書かれていないけれど研究に必要な統計手法を解説した論文を読み解けるようにもなりました.

今後は，１級で学んだ数理統計学の知識をもとに，疫学研究で使われる統計解析の理論的な背景を学んでいきたいです.

２級合格

様々な分野の考察地盤としての統計学の有用性に気付きました

東村　健太朗さん（株式会社サンリオ）

私は現在，需要予測を主とする部署で働き始め二年目を迎えます．同部署の先輩方はどなたも経験豊富な熟練者の方々で，なんとか早く先輩方に追いつき同じレベルでビジネスを語れるようにならなければと感じていました.

経験が無いのであれば学問で追いつくしかないと昨年初めに一念発起し，需要予測や時系列分析の書籍を読むようになりました．そうすると，各書籍のいたるところに統計学の知識が使われていることに気づき，統計学の基礎を固める必要性を感じ統計検定を受けることにいたしました.

大学では理系科目を専攻していましたが，恥ずかしながら統計学の授業はさっぱり理解できていなかったため，私の統計検定合格への道のりは統計学の「と」も知らない０からのスタートでした.

勉強を始めるにあたりまずは統計学のことを大まかに把握したかったので,『マンガでわかる統計学』を読むことから始めました．絵と台詞で分かり易く，統計学のイメージをつかむのにとても役に立ちました.

次に『統計検定２級対応　統計学基礎』を読みました．参考書中のいたるところから出題されていることが過去問から見て取れたので，一文一文すべてを理解できるよう，丁寧に読み込むことに努めました.

最後に過去問を数年分解き，分からない単元をつぶしていくようにしました.

無事に合格でき良い成績をとれたこともうれしかったのですがそれ以上に，統計学の基礎を学ぶことで需要予測や時系列分析の本の内容が理解できるようになっていたことに喜びました．そして仕事場では学問的・定量的アプローチから語れるシーンが増え，少し先輩方に近づけたことに喜びを感じています.

統計学は応用範囲が広く，需要予測だけでなく様々な分野を考察する際の地盤として非常に有用であることに気付いたため，これからも学習を深めていきたいと感じました.

３級合格

大切なことは「読み取る力」と「疑う力」

小林　惇志さん（長野県屋代高等学校１年）

私が統計検定を知ったのは，教室で担任の先生がこの検定の受検希望者を募った時でした．初めは受けようかどうか悩んでいましたが，大学受験のデータの分析の内容が検定に含まれていると聞いて，今の内にデータの分析を習得しようと思い，受検することを決めました．

検定受験の学習では，統計検定の過去問を時間内に解いていくという形で６回分行いました．また，相関係数や偏差の求め方などの分からなかった部分についてはインターネットで調べて，理解しました．正直，私もそこまで多くの時間を割いて学習した訳ではありませんが，過去の問題から大体の出題傾向とその解き方が分かったので，このような結果で合格することができました．

この検定において大切なことは「読み取る力」と「疑う力」です．統計検定の過去問を見ると分かることですが，グラフや表から読み取れることを選択する問題がいくつかあります．これらは与えられた情報を隅々まで把握し，選択肢に書かれている内容を吟味することで簡単に解けます．また，このような問題では見落としがちな落とし穴がありますが，しっかりと問題を確認すれば難なく判断できます．

私はこの検定を受検して，統計という分野の面白さを感じました．統計は計算方法を覚える必要がありますが，それ以外はしっかり問題を読めば解けるものがほとんどです．将来，統計を使う機会は必ずあるのでそこで今回学んだことを活かせれば良いと思います．上の級は更に難しくなり，合格率も低くなると思いますが，是非，今後も統計検定を受検していきたいです．

統計調査士合格

定年まで２年．再雇用を見据え，実務に密接な統計調査士に挑戦

大畑　茂久さん（埼玉県庁）

定年を２年後に控え，再任用に当たっては統計課の調査業務を希望しています．応募の際に何かアピールできるものがないかと考えていたところ，統計検定のことを知りました．どれを受験しようか迷ったのですが，実務と一番関係の深いと思われる統計調査士試験への挑戦を決意しました．

勉強は統計法をじっくり読むとともに過去の問題を何回か解きました．それと総務省統計局のホームページをよく閲覧していました．試験時間は60分，この間に30問すべてをいかに解いてマークしていくか，これがポイントになると考え，事前に作戦を練って本番に臨みました．「統計の基本」及び「公的統計の実務」に係る最初の20問は30分以内に処理し，残りの30分で「統計データの見方」に取り掛かるというものです．

そして本番当日．開始30分以内に作戦どおり20問を終えることができたので，少し余裕をもって残りの問題に当たることができました．それでも全問を解き，最後にシートにマークし終えたときの残り時間は３分ほど．問題文などは飛ばして読んできたので不安でしたが，とても見直す時間はありません．覚悟を決めて，解答番号と解答マークの突合だけを行いました．

あっという間に始まり，あっという間に終わった感じですが，ひどく疲れました．でも，まさかＳ評価をいただけるとは思っていなかったので，とても嬉しいです．将来，統計課での再任用が決まったならば，他の検定にも挑戦してみようかと考えています．

専門統計調査士合格，統計調査士合格

参考図書を繰り返し着実にこなすことで醸成される確かな知識

井手　勇慈さん（開発コンサルタント）

本邦 ODA に関わる開発コンサルタントとして，統計学の知見を必要とする機会があります．67歳にして初めての受検で，お盆過ぎから準備を始め，統計調査士（評価Ａ）・専門統計調査士（評価Ｓ）に合格しました．使用した参考図書は次の三点です．

①　社会調査の実際－統計調査の方法とデータの

分析－第12版（学文社）
② 統計学の時間（統計 WEB https://bellcurve.jp/statistics/course/）
③ 統計調査士・専門統計調査士公式問題集2015～2017年（実務教育出版）

まず①は統計調査のバイブルとして版を重ねてきたもので，「I. 社会調査とは」から「VII. 集計」までを繰り返し読み込むことをお薦めします．ただし「VIII. データ分析（1）」以降は，そこに書かれている程度以上の予備知識がないと消化しづらいので，最初から②に集中する方が良いでしょう．

統計学の素養の有無に拘わらず，②は非常に優れた教材です．全体で30章ほどからなり，ステップを踏んでの説明は丁寧かつ明快で，章末に置かれた練習問題は具体的な事例を取り扱っていて理解の確認に役立ちます．いくつかの章は専門統計調査士の試験範囲を超えていますが，１章ごとにダウンロードして着実にこなしていけば，データ分析に関しては十分な知識が醸成されます．

最後は③で総仕上げです．上記①②を学習することで，すでに合格レベルには到達していますから，知識の隙間を埋める目的で活用するのが良いでしょう．問題のすぐ下に正解の数字が見えてしまうのが気になり，直径５ミリほどのカラーシールを貼って数字を隠しました．解答の説明は各問題の下に置かれています．試験直前の追い込み時には，正解の根拠をすぐに確認できるメリットを実感しました．

10. 2019・2020年度代議員選挙結果

2019・2020年度選挙管理委員
樋田　勉（獨協大学）・星野　崇宏（慶應義塾大学）

2018年11月19日（月），統計情報研究開発センターにおいて，選挙管理委員２名（樋田勉，星野崇宏）により，2019・2020年度代議員選挙の開票が行われました．その結果，定款第５条２により，次の34名が選出されました．

会田雅人，青嶋　誠，足立浩平，伊藤　聡，岩崎　学，内田雅之，大森裕浩，金藤浩司，狩野裕，川崎　茂，川崎能典，栗木　哲，栗原考次，西郷　浩，清水　誠，瀬尾　隆，高部　勲，竹内光悦，竹村彰通，田畑耕治，椿　広計，富澤貞男，中野純司，西山慶彦，樋口知之，福井武弘，前園宜彦，増田弘毅，松井知子，宿久　洋，山下智志，山本紘司，美添泰人，渡辺美智子（以上34名，五十音順）

有権者1360名（正会員1345名及び名誉会員15名）中，投票者数141名，投票用紙延べ記名者数705，うち有効653，同無効52でした．なお，当選者のうち西郷浩会員については，特別な事由のため就任を辞退する旨，会長に申出があり認められましたので，代議員選挙規程の第６条により次期代議員は西郷浩会員を除く33名になります．

11. 理事会・委員会報告（2019年２月９日）

一般社団法人　日本統計学会　理事会議事録

日時：2019年２月９日（土曜日）12時00分～13時10分
場所：早稲田大学早稲田キャンパス 22号館５階502教室
理事の総数　13名　出席理事の数　　13名
監事の総数　３名　出席監事の数　　３名

出席者：
理事：赤平昌文会長，西郷浩理事長，玉置健一郎（庶務），中野慎也（庶務），吉田靖（会計），青嶋誠

（JJSD），佐井至道（会誌編集和文），伊藤伸介（広報），山本渉（大会・企画・行事），大森裕浩（国際），汪金芳（国際），松田安昌（渉外），稲葉由之（渉外）
（以上13名，カッコ内は役割分担）
監事：岩崎学，中西寛子，中野純司
委員：川崎茂（企画・行事）

オブザーバーの承認

川崎茂企画・行事委員がオブザーバーとして出席することが承認された．

第１議案　学会事務業務委託費の改正について

西郷理事長より，資料に基づき，シンフォニカへの学会事務業務委託費の改正について提案がなされ，審議の結果，承認された．

第２議案　臨時委員会「質保証委員会」，「基準委員会」，「出版企画委員会」の廃止について

西郷理事長より，臨時委員会「質保証委員会」，「基準委員会」，「出版企画委員会」の廃止について提案がなされ，審議の結果，承認された．

第３議案　臨時委員会「質保証委員会」，「基準委員会」，「出版企画委員会」，「質保証推進委員会」運用規則の廃止について

西郷理事長より，資料に基づき，臨時委員会「質保証委員会」，「基準委員会」，「出版企画委員会」の廃止に伴う運用規則の廃止について提案がなされ，審議の結果，承認された．

第４議案　常設委員会「質保証委員会」の設置について

西郷理事長より，資料に基づき，臨時委員会「質保証委員会」，「基準委員会」の後継として，常設委員会「質保証委員会」およびその小委員会「質保証推進小委員会」を設置することについて提案がなされ，審議の結果，承認された．

第５議案　質保証委員会委員について

西郷理事長より，資料に基づき，質保証委員会委員について次のように提案がなされ，審議の結果，承認された．

委員長：稲葉由之
委員：国友直人，福地純一郎，矢島美寛，西郷浩

第６議案　質保証委員会運用規則，質保証推進小委員会運用規則について

西郷理事長より，資料に基づき，新設の常設委員会「質保証委員会」，「質保証推進小委員会」の運用規則について提案がなされ，審議の結果，承認された．

第７議案　委員会規定の改正について

西郷理事長より，資料に基づき，委員会規程の改正について提案がなされ，審議の結果，承認された．

第８議案　公的統計に関する臨時委員会の設置について

西郷理事長より，公的統計に関する臨時委員会の設置について提案がなされ，審議の結果，設置の方向で検討を進めることが承認された．

第９議案　2019年度事業計画について

西郷理事長より，資料に基づき，2019年度事業計画について提案がなされ，審議の結果，一部修正の上，承認された．

第10議案　2019年度予算について

西郷理事長より2019年度予算案が提示され，吉田会計理事より資料に基づき詳細な説明がなされ，審議の結果，承認された．

第11議案　会員の入退会

西郷理事長より，回収資料に基づき，入退会希望者が紹介され，審議の結果，承認された．

一般社団法人 日本統計学会 委員会議事録

日時：2019年２月９日（土曜日）13時10分～15時20分
場所：早稲田大学早稲田キャンパス 22号館５階502教室
出席：理事13名，監事３名，委員１名，計17名
赤平昌文会長，西郷浩理事長，玉置健一郎，中野慎也，吉田靖，青嶋誠，佐井至道，伊藤伸介，山本渉，大森裕浩，汪金芳，松田安昌，稲葉由之，岩崎学（監事），中西寛子（監事），中野純司（監事），川崎茂（行事・企画）

＜報告事項＞

JJSD 支援委員会

青嶋委員長より，JJSD 第２巻１号の編集状況について報告がなされた．

和文誌編集委員会

佐井委員長より，和文誌48巻２号に掲載の論文を入稿した旨の報告と，49巻１号の編集状況について報告がなされた．

大会委員会

山本委員長より，連合大会案内の作成状況について報告がなされた．

企画・行事委員会

山本委員長より，春季集会の会場，企画セッション，特別セッションおよび広報活動状況について報告がなされた．

庶務委員会

代議員選挙について
中野委員長より，資料に基づき，代議員選挙の結果について報告がなされた．
ICOTS10 会計報告について

吉田会計理事より，資料に基づき，ICOTS10の収支報告書について報告がなされた.

広報委員会

伊藤委員長より，会報178号が刊行された旨の報告がなされた．また，厚生労働省毎月勤労統計調査に関する声明文を１月28日に Web に掲載した旨の報告がなされた.

国際関係委員会

DSSV2019における JSS の名称を冠したセッションの準備状況について報告がなされた．また，赤平会長より，イタリア統計学会からの赤平会長招聘の件に関する状況について報告がなされた.

渉外委員会

稲葉委員長より，11月の統計検定の状況について報告がなされた.

その他

International Encyclopedia of Statistical Science に関する丸善出版との契約について

西郷理事長より，資料に基づき，丸善出版との契約書について報告がなされた.

厚生労働省毎月勤労統計調査に関する声明について

西郷理事長より，資料に基づき，声明文の作成について報告がなされた.

＜審議事項＞

JJSD 支援委員会

審議事項なし

和文誌編集委員会

審議事項なし

大会委員会

審議事項なし

企画・行事委員会

審議事項なし

庶務委員会

学会誌の転載許諾方針について

中野委員長より，資料に基づき，学術著作権協会への著作権管理委託契約と，今後の複製，転載許諾の方針について提案がなされ，審議の結果，承認された.

統計質保証推進協会からの寄付の打診について

西郷理事長より，統計質保証推進協会からの寄付の打診があった旨の報告がなされ，継続審議とすることが承認された.

広報委員会

審議事項なし

国際関係委員会

審議事項なし

渉外委員会

審議事項なし

その他

JSS の名称を冠したイベントにおける原則について

西郷理事長より，資料に基づき，DSSV2019における JSS セッションに関連して，JSS の名称を冠したイベントの講師に旅費を支給するための原則について提案がなされ，継続審議とすることが承認された.

脇本ファンドへの支出に関する依頼について

西郷理事長より，資料に基づき，CIPS-KSS-JSS で開催してきた Wakimoto session の継続について打診を受けたことについて報告がなされ，継続審議とすることが承認された.

今後の予定

2019年３月９日（土）18：00　社員総会，19：30頃 被選代議員会（日本大学経済学部７号館7051教室）

2019年５月11日（土）12：00　理事会・委員会，15：00 学会賞選考委員会（場所未定）

2019年６月８日（土）社員総会（時間，場所未定）（会長候補者と新理事長決定後に調整）

12. 社員総会報告

日時：2019年３月９日（土曜日）18時00分～19時00分

場所：日本大学経済学部７号館7043教室

出席者：赤平昌文会長，西郷浩理事長，出席代議員：青嶋誠，足立浩平，伊藤聡，岩崎学，内田雅之，大森裕浩，大屋幸輔，狩野裕，鎌倉稔成，川崎茂，川崎能典，栗木哲，栗原考次，西郷浩，清水誠，瀬尾隆，高部勲，竹村彰通，谷崎久志，田村義保，椿広計，中野純司，樋口知之，福井武弘，前園宜彦，南美穂子，山下智志，美添泰人，若木宏文，渡辺美智子（以上30名，委任状提出４名）

定数の確認

赤平会長より，以下のように社員総会の決議の要件が満たされている旨説明があった.

(1) 社員の総数35名

(2) 総社員の議決権の数35個

(3) 出席社員の数（委任状による者を含む）34名

一般社団法人　日本統計学会

2019 年度事業計画

（2019.4.1～2020.3.31）

Ⅰ．出版編纂事業

1．和文誌の発行

和文誌 2 号[第 49 巻シリーズ J 第 1 号(9 月)，第 2 号(3 月)]を発行する。

2．Japanese Journal of Statistics and Data Scienceの編纂への参加・協力

3．会報の発行

No.179（4月），No.180（7月），No.181（10月），No.182（1月）を発行する。

4．統計学に関わる書籍を刊行する。

Ⅱ．内外学界交流事業

1．日本統計学会第 87 回大会の開催

2019 年 9 月8 日～12 日の5 日間にわたり，滋賀大学彦根キャンパスにおいて開催する。

統計関連学会連合大会の一環として開催する。

2．春季集会の開催

2020 年 3 月上旬に第 14 回春季集会を開催する。

3．研究分科会の活動

現在，活動中の以下の分科会に加え，新規に活動を開始する分科会を随時募集する。

「スポーツ統計分科会」（田村義保主査：2009 年 6 月発足，2021 年 5 月終了予定）

また，「女性統計家・データサイエンティスト育成分科会」（小野陽子主査)が2019年4月の見込みである。

4．統計関連学会連合の事業推進に協力する。

5．国際学会，国際シンポジウムに協力する。

・ISI東京大会記念基金運営事業に関する業務委託（シンフォニカ）

・Data Science, Statistics and Visualisation 2019への協力

・CSA, KSSとの学会合同セッションの開催

6．会員に有益と思われる学会やシンポジウムを後援する。

Ⅲ．会員関係事業

1．賞の授与

学会活動の活性化促進のため，以下の賞を会員等に授与する。

第 24 回日本統計学会賞

第 15 回日本統計学会統計活動賞

第 15回日本統計学会統計教育賞

第 13 回日本統計学会研究業績賞

第 12 回日本統計学会出版賞

第 33 回日本統計学会小川研究奨励賞

第 1 回 ISI東京大会記念奨励賞

2．各種委員会の活動

年 2 回社員総会を開催する。

年 4 回理事会を開催する。

年1 回役員・代議員協議会を開催する。

その他の各種委員会を適宜，開催する。

3．広報活動の充実

メーリングリストの使用やホームページの充実により，各種情報発信を促進する。

会員名簿を発行し，Web会員名簿を更新する。

4．入会者の拡大

春季集会等の機会を利用し，若手の研究者の拡大を促進する。

統計検定の合格者を対象とし，統計利用者の拡大を促進する。

Ⅳ．啓発普及事業

1．「統計検定」の実施協力

日本統計学会は，一般財団法人統計質保証推進協会が実施する「統計検定」の認定団体となり，統計検定に関わる書籍を刊行する。

2．MOOC による統計学講座の提供

MOOC による統計学の講座を開講するとともに，講座に関わる書籍を刊行する。

一般社団法人　日本統計学会　　2019年度　予算書　　（2019年1月29日作成）

（単位 千円）

		19年度予算	18年度予算	17年度予算	備考
I. 事業活動収支の部		▲ 4,435	▲ 14,395	▲ 1,453	=収入−支出=一般勘定増減+基金積立金増減
	一般勘定	**▲ 2,555**	**▲ 985**	**▲ 1,043**	
	学会活動積立金	0	0	0	
	60周年記念基金	▲ 450	▲ 250	▲ 250	出版賞・小川賞以外の副賞、学会活動補助
	75周年記念基金	▲ 20	▲ 50	▲ 50	出版賞副賞
	ISI基金	▲ 1,300	▲ 13,000	0	ISI基金は2013年度より管理（実際には2013年度使用せず）
	ICP基金	0	0	0	ICP基金は2013年度より管理
	小川基金会	▲ 110	▲ 110	▲ 110	小川基金会は2014年度より予算化
1．事業活動収入		13,296	14,278	14,378	
会費収入		10,820	11,730	11,980	
	名誉会員・正会員	10,100	10,900	11,100	会員数減・種別の変更・減免にともなう収入減
	学生会員	220	330	280	会員数減による収入減
	遡及請求分	500	500	600	
賛助法人費		950	950	950	
団体会員費		320	280	280	
科学研究費補助金		0	0	0	
雑収入		1,206	1,318	1,168	
	会誌購読料	450	450	450	
	利子収入	6	18	18	
	広告収入	600	650	650	
	その他	150	200	50	著作権許諾料他，助成金など
経済学会連合会補助金		0	0	0	
2．事業活動支出		17,731	28,673	15,831	
印刷費		8,250	6,460	7,710	
	会誌（48巻2号,49巻1,2号）	4,800	3,200	6,200	和文誌3号分の印刷
	英文誌	2,000	2,000		英文誌のうち、統計学会負担分
	会報(179−182号)	750	760	810	
	名簿印刷費	200	0	200	奇数年度に発行
	その他	500	500	500	会誌・会報の封筒作成等
大会等開催費		1,510	1,340	1,410	
	春季集会開催費	1,100	1,100	900	懇親会開催経費を含む
	春季集会懇親会収入	▲ 270	▲ 270	0	学会会計には入金されないのでマイナス費用として計上
	各賞運営経費	450	250	250	懇親会招待.表彰状.副賞(60周年記念基金充当)
	出版賞費	20	50	50	75周年記念基金充当
	小川賞費	110	110	110	小川基金会充当
	その他	100	100	100	賛助会員参加費補助
研究分科会費		100	250	250	2件予定、17年度より1件2万円→5万円に変更
学会運営会合費		410	410	340	
	社員総会、役員・代議員協議会	120	120	50	18年度より、有料の会場を想定した金額に変更
	特別委員会	50	50	50	
	統計教育委員会	20	20	20	
	会誌編集委員会	20	20	20	
	理事会	200	200	200	
事務費		699	761	769	
	会費徴収費	449	481	489	ネット決済の手数料(会費収入×3.5%＋70)
	一般事務人件費	40	40	40	
	校正編集事務人件費	40	80	80	
	発送事務人件費	100	90	90	
	事務用品	40	40	40	
	その他	30	30	30	事務員の交通費、収入印紙等
学会事務業務委託費		2,712	2,592	2,592	事務の複雑化により2018年度より12万円/年増額
通信・郵送費		1,790	1,610	1,610	
	会誌送料	400	600	600	英文誌の送料分削減＋郵便局持込費用追加
	会報送料	780	600	600	値上がり分を反映
	名簿送料	10	10	10	
	その他通信・郵送料	600	400	400	値上がり分を反映
役員旅費補助		510	500	500	理事会における理事の旅費等
各種分担金		150	150	150	
	日本経済学会連合	35	35	35	
	国際統計協会ISI	25	25	25	
	横幹連合	50	50	50	
	統計関連学会連合	40	40	40	
ネットワーク維持費		30	30	30	ドメイン使用料，学会サーバー委託費，Web名簿維持費
国際交流促進費		200	1,500	400	
統計検定関係費		0	0	0	
ホームページ更新費用		0	0	0	
租税公課		70	70	70	
ISI 東京大会		1,300	13,000	0	ISI基金から支出:事務委託費20万円,審査費用10万円,
					奨励賞副賞賞金100万円
II. 投資活動収支の部		0	0	0	
投資活動収入		0	0	0	
投資活動支出		0	0	0	
III. 予備費		3,000	10,000	3,000	支出合計に含まない

(4) 書面により議決権を行使した議決権の数０個
(5) これらの議決権の総数34個

オブザーバーの承認

赤平会長より，社員総会に次の３名が出席する旨説明があり，承認された．

吉田理事（会計），玉置理事（庶務），中野理事（庶務）

議事録署名人の提案と承認

赤平会長より，議事録署名人として伊藤聡代議員，瀬尾隆代議員に依頼する旨説明があり，承認された．

審議事項

第１議案　日本統計学会 Springer 委員会運用規則の変更

赤平会長より，資料に基づき，Springer 社の合併に伴い日本統計学会 Springer 委員会運用規則の変更する旨が提案され，承認された．

第２議案　分科会の設置

・女性統計家・データサイエンティスト育成分科会
・計量経済・計量ファイナンス分科会
・統計教育分科会

赤平会長より，資料に基づき，女性統計家・データサイエンティスト育成分科会，計量経済・計量ファイナンス分科会，統計教育分科会の設置申請があった旨が説明され，承認された．設置期間はいずれも2019年４月から４年間となる．計量経済・計量ファイナンス分科会，統計教育分科会については，昨年11月に一旦終了したが，その後申請があったため，４月再開で審議する旨，主査の先生に伝達している．

第３議案　質保証委員会運用規則，基準委員会運用規則，出版企画委員会運用規則，質保証推進委員会運用規則の廃止

赤平会長より，資料に基づき，臨時委員会「質保証委員会」，「基準委員会」，「出版企画委員会」，および質保証委員会に設置された小委員会「質保証推進委員会」の廃止が理事会で決定されたことに伴い，各運用規則の廃止について説明がなされ，承認された．

第４議案　委員会規程の変更

赤平会長より，資料に基づき，委員会規程の一部文言の変更と，常設委員会「質保証委員会」の設置が理事会で決定されたことに伴う委員会規程付表の変更について説明がなされ，承認された．

第５議案　質保証委員会運用規則，質保証推進小委員会運用規則の制定

赤平会長より，資料に基づき，常設委員会「質保証委員会」とその小委員会「質保証推進小委員会」の設置が理事会で決定されたことに伴う各運用規則の制定について説明がなされ，承認された．

第６議案　学会賞各賞の選考委員に関する件

赤平会長より，選考委員として大森裕浩会員および矢島美寛会員が推薦され，承認された．

報告事項（理事会報告）

2019年度事業計画

西郷理事長より，資料に基づき，2019年度事業計画について説明がなされ，承認された．

2019年度予算

吉田会計理事より，資料に基づき，2019年度予算について説明がなされた．

臨時委員会「質保証委員会」，「基準委員会」，「出版企画委員会」の廃止について

西郷理事長より，臨時委員会「質保証委員会」，「基準委員会」，「出版企画委員会」の廃止について報告がなされた．

常設委員会「質保証委員会」の設置について

西郷理事長より，常設委員会「質保証委員会」の設置とその委員について報告がなされた．

公的統計に関する臨時委員会の設置について

西郷理事長より，公的統計に関する臨時委員会を設置する方向で検討している旨，報告がなされた．

会員の入退会

西郷理事長より，回覧資料に基づき，会員の入退会について報告がなされた．

報告事項（委員会報告）

各委員会における委員長・委員の交代・再任について

西郷理事長より，資料に基づき，常設委員会の委員長・委員の交代・再任について報告がなされた．

2019年３月開催の春季集会について

西郷理事長より，資料に基づき，春季集会について説明がなされた．

2019年度統計関連学会連合大会について

西郷理事長より，2019年９月８日（日）～12日（木）に，2019年度統計関連学会連合大会が滋賀大学彦根キャンパスにて開催される旨の報告がなされた．

日本統計学会各賞について

日本統計学会各賞の募集期間が2018年12月10日（月）～2019年３月29日（金）であることが確認された．

ISI 東京大会記念奨励賞に関する申し合わせ事項の修正について

西郷理事長より，資料に基づき，ISI 東京大会記念奨励賞に関する申し合わせ事項の修正について報告がなされた．

学術著作権協会への著作権管理委託契約について

西郷理事長より，資料に基づき，学術著作権協会への著作権管理委託契約の更新により，複製に加えて転載許諾を委託した旨の報告がなされた.

報告事項（その他）

厚生労働省毎月勤労統計調査に関する声明について

西郷理事長より，資料に基づき，厚生労働省毎月勤労統計調査に関する声明について報告がなされた.

分科会活動報告

西郷理事長より，資料に基づき，計量経済・計量ファイナンス分科会，スポーツ統計分科会，統計教育分科会の各分科会の活動について報告がなされた.

次回日程等

次回社員総会が2019年６月８日（土）13：30から開催予定であることが案内された.

13. 被選代議員会報告

日時：2019年３月９日（土） 午後７時30分～午後８時10分

場所：日本大学経済学部７号館４階 7043教室

出席者：赤平昌文（会長）

被選代議員：青嶋誠，足立浩平，伊藤聡，岩崎学，内田雅之，大森裕浩，金藤浩司，狩野裕，川崎茂，川崎能典，栗木哲，栗原考次，清水誠，瀬尾隆，高部勲，竹村彰通，田畑耕治，椿広計，富澤貞男，中野純司，西山慶彦，樋口知之，福井武弘，前園宜彦，増田弘毅，松井知子，山下智志，山本紘司，美添泰人，渡辺美智子（以上，30名），

選挙管理委員：玉置健一郎，中野慎也（庶務理事）

冒頭，赤平会長より被選代議員の出席者および選挙管理委員の確認後，開会宣言がなされた．また，赤平会長より議事録署名人として伊藤聡，瀬尾隆，両被選代議員が提案され，承認された.

審議事項

第１議案　会長候補者の選出に関する件－会長選挙規程第３条

赤平会長より，資料に基づき，被選代議員会による会長候補者選出方法について（会長選挙規程第３条より抜粋）および歴代会長について説明された後，提出された会長候補者推薦理由書が提示された．投票の結果，川崎茂氏を会長候補として選出することに決定した.

第２議案　被選理事長の選出に関する件－役員選任規程第２条

赤平会長より，資料に基づき，被選代議員会による被選理事長の選出方法について（役員選任規程第２条より抜粋）について説明があり，被選代議員名簿が提示された．投票の結果，山下智志被選代議員を被選理事長とすることに決定した.

報告事項

１．次回日程等

赤平会長より，役員・代議員協議会は2019年９月，2019年度社員総会は2020年３月に開催される予定であることの報告があった.

14. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を原稿到着順に紹介いたします．（1）氏名（2）学位の名称（3）取得大学（4）論文題名（5）主査または指導教員（6）取得年月の順に記載いたします．なお，（6）取得月日を省略しているものはすべて2019年３月です.（敬称略）

博士論文

●（1）上原悠槙　（2）博士（数理学）　（3）九州大学　（4）Statistical inference for ergodic non-Gaussian stochastic differential equation models　（5）増田弘毅

●（1）高部勲　（2）博士（統計科学）　（3）総合研究会大学院大学　（4）企業データの統計的マッチング及び変数選択に関する研究　（5）山

下智志

●（1）川島孝行　（2）博士（統計科学）　（3）総合研究大学院大学　（4）Robust Regression Modeling with Sparsity　（5）藤澤洋徳

修士論文

●（1）上田勇祐　（2）修士（数理学）　（3）九州大学　（4）精度行列とサポートベクター回帰のスパースモデリング　（5）西井龍映

●（1）栗元一鴻　（2）修士（数理学）　（3）九州大学　（4）傾向スコアを用いた欠測データ解析のための情報量規準　（5）西井龍映

●（1）小松慧　（2）修士（数理学）　（3）九州大学　（4）スパース推定に対する条件付き AIC　（5）西井龍映

●（1）清水雅憲　（2）修士（数理学）　（3）九州大学　（4）重回帰誤差項に基づくハザードモデルのカーネル型推定　（5）前園宜彦

●（1）三原功也　（2）修士（数理学）　（3）九州大学　（4）安定化重みを用いた傾向スコア解析のための情報量規準　（5）西井龍映

●（1）山下雄大　（2）修士（数理学）　（3）九州大学　（4）一般化線形モデルにおける Group Lasso に対する AIC 型情報量規準　（5）西井龍映

●（1）Xiao Jijia　（2）修士（数理学）　（3）九州大学　（4）On stability of diffusion with multimodal drift　（5）増田弘毅

●（1）相田颯己　（2）修士（理学）　（3）東京理科大学　（4）Extended diagonal uniform association symmetry model for square contingency tables with ordered categories　（5）富澤貞男

●（1）池澤友哉　（2）修士（理学）　（3）東京理科大学　（4）Measure of departure from point-symmetry for the analysis of collapsed square contingency tables　（5）富澤貞男

●（1）今枝利樹　（2）修士（理学）　（3）東京理科大学　（4）Marginal cumulative complementary log-log model and decomposition of marginal homogeneity model for square contingency tables　（5）富澤貞男

●（1）荻山恒人　（2）修士（理学）　（3）東京理科大学　（4）Kullback-Leibler information type measure of departure from point symmetry and decomposition of measure for contingency tables　（5）富澤貞男

●（1）高田昌紀　（2）修士（理学）　（3）東京理科大学　（4）A measure of departure from partial symmetry for three-way contingency tables　（5）富澤貞男

●（1）髙橋光　（2）修士（理学）　（3）東京理科大学　（4）James-Stein type measure of departure from symmetry for square contingency tables　（5）富澤貞男

●（1）高見光広　（2）修士（理学）　（3）東京理科大学　（4）Measure of departure from local symmetry for square contingency tables　（5）富澤貞男

●（1）竹内貴志　（2）修士（理学）　（3）東京理科大学　（4）Two-dimensional measure vector of departure from marginal homogeneity for square contingency tables with ordered categories　（5）富澤貞男

●（1）落合達也　（2）修士（理学）　（3）東京理科大学　（4）Model selection using the adaptive LASSO in square tables with ordinal categories　（5）田畑耕治

●（1）木下迅　（2）修士（理学）　（3）東京理科大学　（4）Extended asymmetry model based on logit transformation and decomposition of symmetry for square contingency tables with ordered categories　（5）田畑耕治

●（1）高見遼太　（2）修士（理学）　（3）東京理科大学　（4）Asymmetry of multinomial parameter and decomposition of symmetry　（5）田畑耕治

●（1）三富鴻羽　（2）修士（理学）　（3）東京理科大学　（4）Extension of marginal complementary log-log model and separations of marginal homogeneity for ordinal categorical data

(5) 田畑耕治

●(1) 栗原陵輔　(2) 修士(理学)　(3) 筑波大学　(4) Bias-corrected support vector machines for high-dimension, low-sample-size data　(5) 青嶋誠

●(1) 香西賢人　(2) 修士(理学)　(3) 筑波大学　(4) Equality tests of high-dimensional covariance matrices　(5) 青嶋誠

●(1) 藤田翼　(2) 修士(理学)　(3) 筑波大学　(4) 強スパイク固有値モデルにおける高次元2標本検定　(5) 青嶋誠

●(1) 鈴木和馬　(2) 修士(理学)　(3) 筑波大学　(4) Tests of high-dimensional correlation structures under the strongly spiked eigenvalue model (5) 青嶋誠

●(1) 大畑航平　(2) 修士(数理科学)　(3) 南山大学　(4) 処理効果に順序制約のある乱塊法モデルにおける対照群との比較を行う閉検定手順　(5) 白石高章　(6) 2019年２月

●(1) 光田卓矢　(2) 修士(数理科学)　(3) 南山大学　(4) 母数に順序制約のある多群ポアソンモデルにおける対照群との多重比較法　(5) 白石高章　(6) 2019年２月

●(1) 小林優　(2) 修士(数理科学)　(3) 南山大学　(4) 統計的方法に基づく階層分析法の研究　(5) 松田眞一　(6) 2019年２月

●(1) 早﨑久登　(2) 修士(理学)　(3) 中央大学　(4) 標本四分位数の漸近的評価と比較 (5) 酒折文武

●(1) 入江敦子　(2) 修士(理学)　(3) 中央大学　(4) 正準対応分析における次元圧縮とブートストラップ推測　(5) 小西貞則

●(1) 柴田祐大　(2) 修士(理学)(3) 中央大学　(4) 非階層的クラスタリングにおけるクラスター数の決定法　(5) 小西貞則

●(1) 二宮　啓彰　(2) 修士(理学)　(3) 中央大学　(4) 多変量解析におけるベイズアプローチによる確率的次元圧縮　(5) 小西貞則

●(1) 青島達大　(2) 修士(工学)　(3) 慶應義塾大学　(4) ブラックボックステストにおける taint 分析　(5) 南美穂子

●(1) 石川航作　(2) 修士(工学)　(3) 慶應義塾大学　(4) 適応型学習のための統計モデルと教材の推薦方策の提案　(5) 林賢一

●(1) 泉澤佑　(2) 修士(工学)　(3) 慶應義塾大学　(4) Hawkes 過程を利用したシステミックリスク定量化　(5) 白石博

●(1) 小野あかり　(2) 修士(工学)　(3) 慶應義塾大学　(4) 階層性のある多重比較とメタボロームデータに対する応用　(5) 南美穂子

●(1) 榮宏晃　(2) 修士(工学)　(3) 慶應義塾大学　(4) 共通遺伝子変異を標的とする抗癌剤の治療効果の解析における階層ベイズモデルの事前分布の考察　(5) 南美穂子

●(1) 佐久間亮介　(2) 修士(工学)　(3) 慶應義塾大学　(4) PC Algorithm を用いたプロ野球の勝因分析　(5) 白石博

●(1) 田島史啓　(2) 修士(工学)　(3) 慶應義塾大学　(4) Variable Selection Methods Based on Pseudo-observations in Competing Risks Analysis (5) 林賢一

●(1) 米山慎太郎　(2) 修士(工学)　(3) 慶應義塾大学　(4) Missing Not At Random のデータに対する操作変数を用いた平均処置効果の推定 (5) 南美穂子

15. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します.

●竹村彰通・姫野哲人・高田聖治編著『データサイエンス大系１　データサイエンス入門』学術図書出版社，2019年２月，2,000円＋税

内容紹介：文系理系問わず大学初年次の一般教養

科目の教科書として，データサイエンスの社会的役割や用いられる手法の基礎，コンピュータを用いたデータ分析，マーケティングや画像処理等様々な分野における活用事例を学べる．

16. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2019年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います．会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします．速やかな納入にご協力をお願い申し上げます．便利な会費自動払込制度もご用意しています．次の要領を参照の上，こちらもご活用下さい．また，クレジットカードでの学会費払込も受け付けております．お申込みは学会ホームページよりお願いいたします．(https://www.jss.gr.jp/fee/)．

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに，氏名と住所を以下にお伝えください．手続きに必要な書類が送付されます．

〒101-0051　東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
公益財団法人統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当
Tel & Fax：03-3234-7738
E-mail：shom@jss.gr.jp

入会承認

浅場健太郎，大橋淳史，加来安希，後藤純，齋藤敦，下村真生，杉山聡，陶俊帆，濱田紘成，伏島光毅，松浦康之，松村光子，山田智明，Paul Sheridan　（敬称略）

退会承認

内山敏典，金丸哲，清見文明，近藤愛，蔡晶瑜，櫻井尚子，鈴木和志，中野あい，西尾篤人，西村和志，野町俊文，真壁肇，山村耕一郎（敬称略）

現在の会員数（2019年２月９日）

名誉会員	15名
正会員	1,407名
準会員	2名
学生会員	56名
総計	1,480名
賛助会員	17法人
団体会員	8団体

17. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの，会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください．以下のような情報も歓迎いたします．

- 来日統計学者の紹介
  訪問者の略歴，滞在期間，滞在先，世話人などをお知らせください．
- 博士論文・修士論文の紹介
  （1）氏名（2）学位の名称（3）取得大学（4）論文題名（5）主査または指導教員（6）取得年月　をお知らせください．
- 求人案内（教員公募など）
- 研究集会案内
- 新刊紹介
  著者名，書名，出版社，税込価格，出版年月をお知らせください．紹介文を付ける場合は100字程度までとし，主観的な表現は避けてください．
- 会員活動紹介（叙勲・受章，各種受賞等）

できるだけ e-mail による投稿，もしくは，文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します.

原稿送付先：

〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1
中央大学経済学部
伊藤 伸介　宛
E-mail: koho@jss.gr.jp
（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

- 統計学会ホームページ URL：
  http://www.jss.gr.jp/
- 統計関連学会ホームページ URL：
  http://www.jfssa.jp/
- 統計検定ホームページ URL：
  http://www.toukei-kentei.jp/
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
  meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
  koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
  shom@jss.gr.jp